

## 2006年度 SSR 海外携帯型調査研究

主査： 安村通晃（慶應義塾大学）

### 1. 調査研究のテーマ

「Web2.0とその応用に関する調査研究」

### 2. そのテーマの戦略的意義 / 位置付け

World Wide Web (ここでは単にWebと呼ぶ)が誕生して約15年ほど経つ。この間、コンピュータシステムそのものが、従来のOSやアプリケーションと言った枠組みに留まらず、Webの存在無くしては語れないような状況になりつつある。さらに、Webそのものも従来の単なる情報発信、情報交換の手段から、クライアントサイドの処理が重視され、よりオープンな枠組みとしての新しいWebの形態、すなわちWeb2.0が広がる気配が近年見られる。

Web2.0では、利用者は単なる情報享受者としてだけではなく、情報を評価し、共有し、さらには表現者として積極的に関わる立場へと変化してきた。その代表格として、GoogleとAmazonとがある。Amazonでは、単に書籍の検索だけではなく、同じ興味を持った購買者に類似の本を推奨する仕組みや、代理としてWeb上に公告を出した人に対してAffiliate としての利益還元の仕組みを導入したりしている。一方のGoogleは、その時価総額がマイクロソフトのそれに迫る勢いを見ていることから分かる通り、たとえば、Google MapやGoogle Earth といった、これまでに無い全く新しいネット上のアプリケーションの展開が進展しつつある。

この研究では、Web2.0の研究動向を技術的かつ社会的に解明すると同時に、今後のネットビジネスやソフトウェアの在り方に関して、調査研究を実施する。具体的には、Web2.0に係りの深いシステムを実際に構築、運用している機関の関係者からのヒアリングと、メンバー会員内での討議、および、海外での調査などを主に行なう。

#### 関連キーワード:

Adsense, Ajax, Folksonomy, Gresmonkey, Long Tail, Participation, Radical Decentralization, Radical Trust, Rich Internet Application, Rich User Experience, Social Networking Service (SNS), User as Contributor, Web2.0, Wikipedia

### 3. 調査研究の概要

本調査研究は、Web2.0とその応用可能性について、以下の項目に関して調査研究を行なう。

- (1) Web2.0を展開する複数の企業に対して具体例に対するヒアリングの実施。
- (2) Web2.0を実現する技術要件をその概念に即して明らかにしてゆく。
- (3) Web2.0を支える基盤となるユーザ参加・ユーザ貢献がなぜ可能になるかについての社会心理的解明を行なう。
- (4) Web2.0で新たに浮上した著作権、信頼性、プライバシー、セキュリティに関する問題点の検討。
- (5) Web2.0で開かれた新たなビジネスモデルの構造検証と今後の発展の方向に関する討議。

なお、ヒアリングの候補は、現状ではたとえば次のようなところが挙げられる： Google, Amazon, はてな, Mixi など。

本調査における上記5つのテーマに関して、国内研究者の研究チームを構成して調査するがその際、海外または国内の先進的なパイオニアの事業者または研究者を招聘したワークショップかあるいは逆に訪問しての調査活動を行なう。ワークショップは、年数回程度開催の予定である。

SSRフォーラムの活動方針に従い、我々は、今年度末までにレポートを作成し、調査結果はすべてWeb上に保存する。

### 4. 調査研究の進め方(共同研究者など)

調査グループ構成メンバーは、次の通りとする。

#### 「学側メンバー」

主 査：	安村 通晃	慶應義塾大学 環境情報学部
メンバー：	田中 二郎	筑波大学 電子・情報工学系
	野島 久雄	成城大学 イノベーション学部
	村田 剛志	東京工業大学 大学院情報理工学研究科
	増井 俊之	産業技術総合研究所 情報技術研究部門
幹 事：	樋口 文人	慶應義塾大学 SFC研究所

[企業側メンバー](順不同)

メンバー:	本橋 洋介	NEC 中央研究所 インターネットシステム研究所
	田村 弘昭	富士通研究所パーソナルシステム研究センター
	舩橋 誠壽	日立製作所システム開発研究所
	植田 良一	日立製作所システム開発研究所第二部
	江藤 雅哉	東芝 ソフトウェア技術センター
	櫻井 茂明	東芝 研究開発センター
	松本 茂	東芝ソリューション(株) IT技術研究所
	祢 知孝	三菱電機(株) 情報技術総合研究所

[SSR事務局]

佐藤美智代 情報科学国際交流財団 (IISF)

[特別ゲスト](予定)

Tim O'Reilly O'Reilly Media 他